

兒頭面者、是謂枕蚊屋。是亦下賤之所用、而雖大人有用之者、又有以木棉或絹帛造之者、是謂棉帳。冬日釣之禦寒氣。

〔倭爾雅五〕衣服棉帳以棉布爲之、

〔守貞漫稿十八〕雜服附雜事紙張略○中

又困民、綿張トテ木棉製ノ幘モ用フ者稀ニ有之、

〔撮壤集中〕家具紙帳

〔書言字考節用集〕器財紙帳拒蚊者

〔倭訓栞中編〕十之ちやう紙帳の字、事文續集に見えたり、

〔松屋筆記五十二〕紙帳

明人屠隆が考槃餘事四の卷帳の條に、冬月紙帳、或白厚布或厚絹爲之、夏月吳中搗紗爲妙、以粗布爲帳底、如綴頂式、初其三面、前餘半幅下垂、上寫梅花、副以布衾、荷枕蒲褥、左設几鼎、燃紫藤香、迺相絲道人還了鴛鴦債、紙帳梅花醉夢間之意、また紙帳の條に、用藤皮繭紙纏於木上、以索纏緊、勤作皺紋、不用糊、以線折縫、縫之、頂不用紙、以稀布爲頂、取其透氣、或畫以梅花、或畫以蝴蝶、自是分外清致云々、按に、本朝の紙帳これに比れば、いと疎也。○中儀式帳にさまざまの帳の名あり、蚊屋は日本紀に蚊屋媛あり、考槃餘事は龍威秘書戊集中に收む、

〔理齋隨筆二〕何人の戯れになしたるや、紙帳の章あり曰、

それ紙帳に十徳あり、まづ求るに甚だ下直也、是一つ、疾を受けず、風引かず、是二つ、燈外にありて内にて書を見る事明也、是三つ、眼を空にして塵を請けず、是四つ、寐すがた見へず、是五つ、用心の爲に甚よし、是六つ、手足外より蚊喰ず、是七つ、諸虫の來るをしる、是八つ、冬用ひて寒をふせぐ、是九つ、衾とならぬ所は、紙屑買の籠内、是十也、其行末はわれも知らず、何になるやら、

誰勞白猪公、自作下帷工、眠怪臥雲上、醒疑坐雪中、移來滿窻月、遮障四圍風、紅錦綿張客、未知此興